

～洛西からの一読～



今回のテーマは「目には見えない？」

「新型コロナウイルス」という目に見えない物体が、社会生活も経済も大混乱をまねいてしまいました。まだまだこの状況は続きそうです。しかし「目に見えないもの」が心を豊かにし、深く考えさせることもあります。そんな本を紹介します。



星の王子さま (Le Petit Prince)

サン・テグジュペリ 著 内藤 濯^{あろう} 訳 岩波書店

「小さな王子」で光文社から野崎^{かん} 歓の訳でも出版されています。

内藤氏をはじめ倉橋氏、池澤氏、河野氏・・・と訳者の多い作品です。

誰もが聞いたことがある「かんじんなことは、目にはみえない」は訳者によって少しずつ違ってきます。原文では「Le plus important est invisible」(最も大切なものは目には見えない)です。このフレーズは王子さまが地球にやってきてキツネと友達になるための場面に出ってきます。その後「Il est très simple: on ne voit bien qu'avec le coeur. L'essentiel est invisible pour les yeux.」(・・・とてもかんたんだよ。心で見なくっちゃ、ものはよくみえない。大切なものは目には見えないんだよ)とキツネが伝えています。この部分を理解するために王子さまはいくつもの星をめぐる変な大人にも会ってきたようです。心で何を感じ、どう理解するのか。本当に大切なものとは何だったのか。読み手の一人一人に語りかけられているようです。

訳者による読み比べも一興です。



銀河鉄道の夜

宮沢賢治・作 金井一郎・絵 MIKIHOUSE

午後の授業ではどうやら天の川について説明をしているようだ。ジョバンニという主人公とその親友のカンパネルラは星についていくつかの知識があるのだがなぜか沈黙している・・・。初めてページを開いたとき、その言葉と描写に違和感を覚えてしまった。日本のお話のはずだが、場所もどこか異国のような雰囲気醸し出している。すべて賢治の独特な世界が描かれている。ジョバンニの体験する鉄道旅行の様子は幻想的で読み手を混乱させる。その世界を金井氏が独特の技法で描いている。その絵で、賢治の世界を想像することに近づけたようだ。作品を読むのではなく、そこに描かれようとした世界を感じてみてはいかがだろうか。

